

---

# 人魚姫の鎮魂歌

緋色

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

人魚姫の鎮魂歌

### 【Nコード】

N8803U

### 【作者名】

緋色

### 【あらすじ】

魔法少女まどか マギカの短編になります。

作者の癖のようなものでしょうか、詩的な表現が多く短編という体をなしていませんが、ようは書きたいものをただ書きたいようにかいてあるだけなので、そこところはご了承くださいませ。

推薦BGM さやかのテーマ  
C o n t u r b a t i o

騎士　そう呼ぶにふさわしい少女は、ツルギを片手に走る。  
脳裏に想い人を浮かべて、倒すべき敵を見据えて、心をよこして走り続けた。

1

それは“誰かがやらねばならない”ことだった。

誰かがやらなくては、誰かが傷付くのだから。

では、誰が？　町を護ってくれていた銃士はもういない。

町を護れる力を持つもう一人の槍兵は、人々を犠牲にして、利を求め。

ならば、自分しかいないじゃないか、と。

世界の脆さを知り、世界の儂さを知り、大切な者たちが傷つくかもしれないことを知ってしまったのだ。

なら、護らなきゃいけないじゃないか。

なのに、どうして彼らは誰かを傷つけるんだろう。

私が護った誰かが、私が護りたい誰かを傷つける。

誰かの幸せを祈ったのに、誰かの絶望を望んでしまう。

皆は私が護る、それはもう決まっている。

護りたいと、彼女は思ったのだ。

人々を絶望に陥れる奴らと、闘うことを選んだのだ。  
想い人の幸せを祈ったのだ。

だけど、誰も私を護ってはくれない。  
皆が私が護るから、魔女たちは私が全部倒すから 誰か私を護つてよ。

皆の幸せは私が祈るから 誰か私の幸せを祈ってよ。

ああ、貴女は私に祈ってくれるんだ。  
そうだね、そうだったね。

もっと、早く気づくべきだったんだ。  
幸せと絶望は、天秤の上なんだということに、もっと早く気づくべきだったんだ。

奇跡を祈れば、それだけの絶望を背負わなくてはならないことに、  
もっと早く気づくべきだったんだ。

ヴァイオリン、弾けるんだね。

私はいなくなってしまうたけれど、貴方はこの道を進んでください。  
貴方が幸せならそれで そんなのは嘘。

嘘、嘘、ぜんぶ嘘。  
貴方を助けたかっただけなんて、嘘。

本当は振り向いてほしかった、私を見てほしかった。

私を愛してほしかった。

私に旋律を奏でてほしかった。

私の手を握ってほしかった、私の傍にいてほしかった。

きっとこれは罰なのだろう、奇跡なんていう不条理を望んでしまっ  
た私への。

きっとこれは罰なのだろう、人を美しいと想っていた私への。

奇跡なんて望んではいけない、だってそれは、とても不合理なもの

だから。

人は美しくなんてない、だって人は、とても未完成なものだから。

人魚姫は心を奪われて、深い海の底へと沈んでいってしまった。

王子様は、姫様と結ばれた。

だけど、一人の騎士が、人魚姫を

2

幼い時より共に在った彼女は、どこかへいってしまった。

お葬式の際に見た写真で、初めて死んでしまったことを認めた。

4

いつもいつも、僕にクラシックを聞かせてくれていた彼女。

僕の演奏を好きだと、綺麗だといってくれた彼女。

僕にとって、最初の観客。

苦しくて、やるせなくて、場違いな怒りをぶつけてしまった彼女。

僕は腕が治って、いままでの自分がいやになって、だから変わろうと思った。

ヴァイオリンをがんばって、学校だって、久しぶりだったからすごく大変だったけど、また彼女と学校へいきたくて、僕は歩いた。

格好悪いところをあまり見られなくなかったから、避けるようになっていたけれど、彼女の友達に、彼女のことを教えてくれた。

夕陽に照らされるベンチで、彼女の友達と、彼女の話で盛り上が

る。

僕がいなかったときのことや、僕が復学してからのこと。話題は尽きなかったし、彼女の友達はとても話上手で、そしてなにより彼女のことを大切に思ってくれていた。

そして、運命の夜。

突然の訃報、お通夜で逢った彼女の友達は、泣いていた。

腕が治って以来、初めてのコンサートだった。

観客は、見えない。

いや、そこにいるのだろう、それはわかる。

だけど、僕は誰もいないはずの、奥の席をずっと見ていた。

どうしてだろう、なぜかとても、悲しくなつて やるせなくなつて、悔しくなつて、愛しくなる。

ふと、僕は気づいた。

ああ、彼女がいる、と

どうしてそう思ったのかは、わからない。

きつと、今日の演奏のせいなのだろう。

レクイエム、魂を鎮める歌。

彼女は安らかに眠っているのだろうか、いや、彼女ならきつと元気に笑っているかもしれない。

ああ、願わくば 安らかな眠りを与えたまえ。

聖母の腕かいなに抱かれて、安らかな眠りについてくれ。

僕の演奏は、総て貴女に送るものだから。

演奏は、観客がいなければできないのだから。

どうか、僕の最初の観客よ、安らかな眠りの中で、この旋律を聴いてくれ。

## 解説

魔法少女まどか マギカより美樹さやかと上条恭介ですね。  
なんだか衝動的に書いてしまいました、とても詩的な表現が多くな  
ってしまいました。

読んでいただければわかるとは思いますが、私は美樹さやかも、  
上条恭介も志筑仁美も好きです。

この三人の誰が悪者だとか、そういうことは思いません。  
なんだか上条君と緑の子がすごい叩かれているのを見て悲しくなっ  
てきます。

ここまで読んでくださった方、ありがとうございます。

おいおい追加していきたいとも思っております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8803u/>

---

人魚姫の鎮魂歌

2011年9月25日01時52分発行